20201115レムナント教会1部

**違う感謝(Ⅰテサロニケ5:16-18)**

　聖書が一番強調していることと言いますと、イエス・キリストを信じることによって罪人が救われるということです。そして、救われた信者に一番強調している言葉の一つが感謝です。その感謝の言葉の数は数えきれないほど聖書に記され、強調されています。なぜこれほど感謝が強調されているのかと言いますと、感謝は普通に考えているような人間の教養の一つの項目、あるいは道徳の一つのようなものではありません。実際、本当の意味で感謝ができる人は、まず精神的に健康を保つようになります。と同時に信者の場合は、目に見えないサタンを踏み砕いて勝利する、つまり霊的な戦いにおいて最高の武器になるものが感謝です。神様は私たちを愛しておられるから勝利を用意していらっしゃる方なので「感謝しなさい」と勧めていらっしゃいます。その結果、感謝の人は正しい道を進むようになります。余計なさまよいなどに振り回されずに、神様が用意していらっしゃる契約を全うしていく正しい道を進んでいくようになり、結果的に勝利の人生を歩むしかありません。その感謝について、聖書は私たちの頭の理解ではなかなか収まらない勧めをしています。〝いつも感謝しなさい。すべてのことに感謝しなさい″。私がクリスチャンになってとてもとても感謝だったのは間違いありませんが、〝すべてのことに感謝しなさい。いつも感謝しなさい″ということに対しては、神様のみことばなので否定することはできないけれども、納得はなかなかできませんでした。悪いことがあるのに、辛いことがあるのに、どうして感謝できるかということです。なぜいつもすべてのことに感謝しなさいと言われているのかと言いますと、クリスチャンの私たちの感謝というものは、一般的な感謝とは次元が違う感謝だから、違う感謝に走りなさいという意味です。

　今日は収穫感謝礼拝として、皆がいま主に感謝の思いを捧げる礼拝をしています。クリスチャンの違う感謝、世の人は真似できない感謝というのは、どのような感謝なのでしょうか。どのような感謝なので、いつもすべてに感謝できるのでしょうか。その違う感謝というのは、まず第一に状況や環境がどうであれ、神様が私にいのちを与えられたということを覚えて、そのいのちを感謝するので、いつも、どこでも感謝するようになるということです。いのちを理解するために、また、いのちがそれほどの感謝なのかということを理解するために、いのちのない人間がどういう状態なのか、いのちが必要な人間というのはどのような存在なのかについて、聖書を通してまず正しく理解していかないといけないと思います。ご存知のように、人間は自然に進化して今の人間になったわけではありません。最初から神様は特別な存在として神のかたちとして造られたものなのです。それでその神のかたちにするために創世記2：7を見ますと、人間を形造り、その鼻に息を吹き込んだと記されています。息を吹き込んだそれが聖霊様のことです。その結果、人間となったと言われています。ですから、人間というものは最初からいのちあるもので、動物にある肉のいのちとは違う、神様ご自身がともにおられることによって人間が人間となった、これが聖書が語っている人間の定義です。つまり、いのちというものは、人間独特のものであり、人間固有のものであり、人間だけに許されている神様の特別なプレゼントなのです。神様がともにおられること、それをいのちと言います。そして、そのいのちの中に幸せも力も祝福も未来も希望もすべてがそこにあるということを忘れてはいけません。

　しかし、残念ながらこのなにものにも変えがたいいのちを失うことになります。創世記2：17を見ますと、善悪の木の実を取って食べると必ず死ぬと宣言されていました。にもかかわらず、悪魔の誘いに乗って、その木の実を取って食べてしまいます。そのときに人間はいのちを失うようになり、それを死んだ、死というようになります。そのときから人間はいのちのない状態で生きることになります。ローマ3：23には、「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」、すべての人がいのちを失ってしまったという宣言です。ローマ6：23には、「罪から来る報酬は死です」とあります。もちろん息ができなくなって死んだ、それももちろん死です。しかし、死の本当の意味は、神がともにおられる最高の祝福がすべて壊れてしまい、神様がいらっしゃらない状態になってしまった、それが死というものです。人は罪によって死の状態に陥ることになりました。それをパウロはエペソの手紙でこのように詳細に記しています。エペソ2：1、「自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって」。罪によって人は神に会えなくなり、神が人間から離れてしまい、肉に過ぎない存在になりました。これがいのちのない状態です。いのちのない状態を死んでいると聖書は言っています。いま息をしながらぴんぴんと自分なりの欲望と課題を抱えて一生懸命、汗をかいて生きているでしょうけれども、神様がご覧になったときには世界中の皆が死んでいる状態なのです。ここが何か分かっていないと、クリスチャンの感謝が何かがなかなか理解できません。死んだことによって、人の人生はどうなってしまったのかと言いますと、エペソ2：2、空中の権威を持つ支配者、悪魔、サタンに従い、悪魔に従うことも知らずに、悪魔が作り出した世の流れ、神はいない、神はいらない、人間が最高だ、人間、自分で十分希望があるよ、頑張ればどうにかなるよというような風潮に流されて、やればやるほど、時間が流れれば流れるほど神に敵対して、神から遠ざかる道を選ぶしかない人生になってしまいました。これがいのちを失ったということです。もっと正確に申し上げますと、イエス様がおっしゃった通りに、あなたがたはあなた方の父である悪魔から出た者であると言われる存在になってしまいました。それゆえ何をどうするか以前に、エペソ2：3、生まれながら神の御怒りを受けるしかない存在として生まれました。誰ひとりこの事実を知る人はいません。知識が麻痺してしまうので。それが死んだということです。肉の知識以外には何も分かりません。どんな科学者、天才であっても、メンサのメンバーであってもその知識というものは肉に過ぎないもので、霊的には麻痺の状態なのです。生まれながら滅びるしかない運命を抱えて生まれて、人生そのものが結局は霊的な問題、精神的な問題、肉体的な病、人間関係が壊れていて、疲れて重荷を背負う人生を歩くしかありません。残るのは空しさ以外には何もない人生になってしまいました。これがいのちのない人間の状態なのです。最後にはへブル9：27にあるように、「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」とあります。さばかれて永遠の地獄に行くしかない運命に捕らわれるようになってしまいました。これがいのちのない人生です。世の中では、「その人は優しい人間なんだね」「性格悪いな」「金持ちだね」「貧乏なんだね」「先進国だね」「後進国なのだね」「知識あるな」「無知な人間だね」といろいろな評価があるかもしれません。しかし、神様は世界中のすべての人は死んだと、これが聖書が評価している人間の評価です。ですから、聖書は人種差別などは言語道断なのです。それは別に人権を尊重するからという意味ではありません。すべての人は皆死んでいるのです。黒人も白人もユダヤ人も異邦人も関係ありません。いのちがない状態なのです。どう頑張っても滅びることはもう決まっている運命に捕らわれて生きるしかない存在です。いのちのない存在です。

　神様はこのような人を愛して、このような人を不思議な憐れみをもって、人にいのちを与えようと約束されました。人がいのちを得られる道は一本しかありません。神様は最初から最後まで一つの道以外には何もおっしゃったことがありません。聖書は66巻の分厚い聖書です。しかし、この聖書に道がこっちにもあっちにもあるという話はありません。創世記から黙示録まで道は一本しか記されていません。最初から神様はおっしゃいました。創世記3：15、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕き、またかかとにかみつかれて血を流して犠牲のいけにえいなること、これ以外には道がありません。罪のないメシヤ、キリストが罪あるいのちを失って悪魔の奴隷となり、滅びの運命、地獄の運命に捕らわれて、人間の身代わりとして罰せられて血を流されて死ぬこと以外には道はありません。そこで人間のどうのこうの、世の中の法則などがすべて崩れて消え去っていかなければなりません。これをキリスト教と言います。キリスト、メシヤが死ぬ以外には方法がありません。そのキリストが世に来られて、約束通りにいのちが得られるすべての救いの働きを成し遂げられました。へブル10：14、「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです」。ご自分を捧げものとして捧げることによって、これ以外にはいのちが得られる道はありません。人が努力することは大切です。しかし、努力によっていのちが得られるはずがありません。とんでもありません。発展すればこの世の中は変わるでしょう。けれども、根本的には変わることはありません。発展、科学の知識がいのちに近づく、とんでもありません。先日、残念ながらノーベル賞をもらった方が亡くなられたニュースを見ました。その方が研究した内容は、非常に興味深い内容だと世界中が注目してノーベル賞を与えましたが、聖書から見るととんでもない研究なのです。いのちの起源が宇宙のどこかでという話なのです。それに世界中は称賛するわけです。いのちはそのように得られるものではありません。メシヤ、キリストが身代わりとして死ぬこと以外には、血を流すこと以外には方法がありません。その方がイエス様です。そのイエス様がキリストとして十字架で死なれるときに宣言されました。すべてを完了したと。それ以外には道がありません。他にややこしく頭の中でいろいろなことが複雑に行き来することは悪魔の働きなのです。キリストしか見えないのが正常です。神様はその状態のために、私たちに刻印されている過去、様々な理論や見解や法則などを消すための荒野を歩ませる方です。神様はクリスチャンに対して、ご自分の子どもに対して、それは譲ることはありません。足を折ってでも、家族の中に悪霊にとりつかれた者を許されてでも、クリスチャンがOnlyキリスト、キリストしか見えない、そのような信仰者になるようにされます。

　なぜかと言いますと、その次に勝利の人生が待っているからです。そのイエス様が約束通りに血を流されていのちが得られる道を備えられました。Ⅰヨハネ3：8、「神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです」。そのキリストであるイエス様がおっしゃいます。ヨハネ14：6「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」。イエス・キリストこそがいのちなのです。「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」。つまり、いのちが得られる道などは、宇宙のどこにもないということです。どのようにすればいいでしょうか。何も要求していません。神様は神様ご自身がご自分の御子、罪のないキリストを犠牲にしてすべてを成し遂げられて、それから私たちにただプレゼントとして与えようとしていらっしゃいます。人間にはいのちのためにやれるような良いもの、いさおなどは一切ありません。ヨハネ3：16、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。このイエス・キリストを救い主として信じることだけです。だからエペソ2：8には、このいのちはあなたがたから出た者ではなくて、恵みのゆえに信仰によって与えられた神からのプレゼント、神からの賜物なのだと説明しているわけです。いのちがなければその人が博士になったとしても、自分の目標を達成して、この世の中で認められる存在になったとしても、幸せでも何でもありません。いのちがないままの状態です。

　改めて申し上げます。私たちは人を評価する様々な基準に慣れています。それは無視はできませんけれども、クリスチャンであればまずいのちがあるかどうかから見ないといけません。そうすると、憧れのアイドルの人もいのちがないわけです。首相もお医者さんも一生懸命頑張っていることはありがたいのですが、いのちがないことには間違いありません。そこをあいまいにしてパスしていてはいけません。愛しい家族の方々、でもいのちがあるかどうかで見ないといけません。いのちの道は優しいから、修行するから得られるものでもありません。キリスト・イエスの十字架のほかにはありません。人間的な評価で最低の点数がつけられた人間でも、イエス・キリストを信じる者はいのちが与えられ、そのいのちは永遠に変わることがない、奪われないものなので永遠のいのちと言います。つまり、神様がいつまでも永遠にともにおられる、神からのプレゼント、永遠のいのちをいただくようになります。その永遠のいのちというものは、ローマ8：2、死と罪の原理から永遠に解放され、ガラテヤ2：20、過去の滅びる自分は十字架とともに死んで、いまはキリストが内側に生きている状態、それをⅠコリント3：16では、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのかと言われています。これがいのちが得られたということです。状況、環境がどうであるか以前に、根本的、究極的にエペソ1：3にあるように、いのちある者は刑務所の中にいても、死の影の谷を歩いていても、天からのすべての霊的祝福をいただいている者、幸いな者、幸せな者です。どれほどの祝福なのでしょうか。私たちは健康であれば、金持ちになれば、就職できれば、大学に進級できれば幸せという概念が刻印されていますが、天にある霊的祝福はそういうものではありません。ローマ8：30、キリスト・イエスを信じることによって、義と認められ、神に受け入れられるだけではなくて、栄光を与えられたキリストと似たものに造り変えられました。これが祝福なのです。これがいのちの祝福です。ピリピ3：20にあるように、当然いつまでも死んでも天国に迎え入れられるように天の御国の国籍を所有するようになる、これがいのちであり、この地上にいる間にその人を通して神の国がこの地に臨まれ、暗やみの王国が砕かれる勝利を味わうようになります。これがいのちの祝福なのです。

　ペテロはイエス様に告白しました。「主は生ける神の御子キリストです」。そのときにイエス様がおっしゃいました。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです」。私たちは神様の恵みによって、イエス・キリストを受け入れることによって、たとえ親が私を見捨て、私が悲惨な人生を歩んできたとしても、それが不幸になることはありません。いのちはそれと全く関係ありません。それゆえいつでも、どんなときでも感謝することができます。まずいのちを感謝すること、これがクリスチャンの感謝です。そして、いのちある者は、何も心配しなくても結構です。なぜかと言うと、いのちある者を神様がその人の人生を責任をもって導かれるわけですから、その神の導き、不思議な完璧な導きを感謝すること、これがクリスチャンの感謝です。私たちの頭の中には、導きとなると自分の願い通りにうまくいく方法でとついつい考えるでしょうけれども、神の導きはそういうものではありません。いま申し上げましたいのちの祝福が絶対奪われることなく変わることないように守られます。ローマ8：39、どんな被造物も、このキリスト・イエスの愛から切り離すことはできないように守られて導かれます。ですから、当然、ローマ8：37にあるように、患難があれ、危機があれ、裸であれ、すべてが奪われて、どんな困難に遭遇することがあっても、そういうことがないのが導きではなく、その中でもいのちある者なので、神様が導かれるわけですから圧倒的な勝利者となります。これが神の導きです。いのちあることに感謝しましょう。

　このことを具体的に現実の中で味わうことを24時と言います。神の導きはそれどころではありません。ローマ8：28、「すべてのことを働かせて益としてくださる」、死さえも益としてくださいます。益にならないものは、クリスチャンの人生に存在しません。すべてが益です。つまり、勝利は前提になっていて、すべてが答えであり、すべては機会である、そのような恵みの人生に導き入れられて、そのように神様が導いていらっしゃる存在なのです。なぜでしょうか。いのちがあるからです。これが感謝です。ですから、ピリピ1：6、キリスト・イエスの日までに、良いことを始められた方が、クリスチャンのことを最後の最後まであきらめることなく、捨てることなく、最後まで全うされると言われるわけです。皆さんの問題は、問題が問題ではなくて、いのちの祝福の何かが分かっていません。いのちを感謝するというのは、イエスがキリストだと認めることなのです。それから、日々起きる様々なこと、自分自身から周り、世界中で起きるすべてのことに対して、神様の導きを見ることです。死の影の谷を歩いてでも神が導いていらっしゃるので、そこが安らぎの泉の憩いの場になるわけです。私たちから平安を奪い取ることができるものは世に存在しません。ただ私たちがそれを許すだけです。そのような神の完璧な導きの中にいま私たちが預かっているものなので、それを覚えるときに感謝するしかないのではないでしょうか。すべてが感謝なのです。すべてが。自分のミスによって膝が壊れた。入院生活をしなければいけません。それは反省しないといけないでしょうけれども、それも感謝なのです。感謝できないものは何一つ存在しません。この感謝のときに悪霊が追い出されて、暗やみの王国が砕かれるようになります。そうじゃないと教会に通いながら、ハレルヤと言いながらも悪魔に操つられるようになるしかないわけです。歯を食いしばってでも、皆さんの脳細胞の中にこれこそが私なのだ、これこそが私の祝福なのだ、この感謝が私の感謝なのだと、感情がついて行かなくても約束を握って、信仰を持って歯を食いしばって、脳細胞に繰り返し、繰り返し、繰り返し入れることです。今まで入っているもの、自分の弱さや過去のものを正当化しないでください。それがあるからといって問題にはなりません。キリストによって終わりました。しかし、新しいものを入れる霊的な戦いをするべきなのに正当化してしまうと、その戦いに挑むことができないのです。感謝は戦いなのです。

　それから、神様がなぜこのように導かれるのでしょうか。このように守られるのでしょうか。今すぐ死んでも天国に迎え入れられます。天国の方がずっと素晴らしいわけです。この地上にいる間に、一回限りの人生、神様が一番価値ある人生を備えて歩ませることに対して感謝するわけです。これがクリスチャンの感謝です。なるほど、この福音宣教の道を歩むのか。そのために起こる様々なことなのだなと。神様は何を食べるか、何を飲むか、何を着るかなどによって生きる、その人生から私たちを引き上げて、神の国と義を求めていく人生を歩ませる方です。それこそが感謝です。世の中の人は自分さえよければと、裕福になることを目指して、成功を目標にして頑張っています。そのような人生はもう終わりました。私たちにはそのような欲望も目標も何もありません。私たちの目標は一つしかありません。イエス・キリストがおっしゃいました。わたしが行ったことをあなたがたも行い、それ以上のことを行うようになる。それが何でしょうか。わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、蛇をも掴み、毒を飲んでも害を受けることができない、そのような人生、病人に手を置けば病人はいやされる人生。どのようにそれが可能になるのでしょうか。聖霊が臨まれると力を受けて、地の果てにまでイエスの証人になるときに悪霊が追い出されて、蛇が砕かれ、この地に神の国が臨まれます。それ以上、価値ある人生はありません。仕事がどのような仕事なのか、どのような専門知識を持っているか、それはそれぞれです。しかし、専門が違っていても、仕事が違っていても、目標は一つしかありません。生きる理由は、この世にキリストの他に希望がないので、キリストを伝えることによって神の国が臨まれるようにすること、それ以外に生きる理由などありません。この理由に目覚めて、この理由のために召していらっしゃること、それに感謝するわけです。だから、イエス様ご自身がおっしゃったように、私たちが世の中にいる間に、世の光として、王である祭司として生きること、それが感謝なのです。物事がすべてうまくいくから感謝ではありません。イエス様もおっしゃいました。その感謝は世の中の誰でもできるものです。あなたに良くしてくれる者を愛するということは異邦人でも皆やっているのではないのか。あなたはいのちある者ではないのか。いのちにフォーカスを合わせないと感謝もずれてしまいます。その感謝ではちんぷんかんぷんになり、ぶれる信仰になり、そのような普通の感謝、うまくいけば感謝、そうでなければ泣いてしまうような感謝ではこの世の中を勝利者として歩むことは無理なのです。悪霊がうずまいているわけですから。キリスト・イエス、イエスはキリスト。いのち。完璧な神の導き、何も心配しなくてもいい、何も悪く思わなくてもいい。何も恐れずに、何も羨まずに、何も問題にせずに、何ものにも引っかからずに、王としての祝福を味わう、これが感謝です。だから、刑務所の中でも喜びなさい。死の影の谷を歩きながらも、私に乏しいことはありません。そのときに悪霊が砕かれるわけです。そのときに。不満、不平、つぶやきも私たちにはいらないものです。道徳的にそうしちゃいけないという命令とは違います。皆さんがイエス・キリストを信じることによって、今の現状、状況、環境がどうなのか関係なく、そういう感謝をせざるを得ないほど尊い価値ある祝福された存在だということを忘れないでください。

　今日、この感謝礼拝を通していただきましたメッセージを握って、今現在皆さんが置かれている状況はどのような状況でしょうか。その状況と全く関係なく、優先していのちを感謝してください。関係なく感謝すべきなのに、ついつい何かを計って感謝しようとするのです。それが間違いなのです。関係なく、無条件、いのちはそういうものによって揺さぶられるものではないので、いのちを感謝します。それから、そのいのちの感謝に立っていたときに、どのような状況でもそのすべての状況が神の導きだということを発見するようになります。そのときまでは悲しくてイライラして不安になるしかないような状況だったでしょうけれども、いのちを感謝してその上に立ってみると、それが神の導きなのです。ヨセフが奴隷として売られました。それが神の導きだったわけです。腹違いの兄たちにいじめられていました。それが神の導きだったわけです。何が問題でしょうか。状況と関係なくいのちに感謝し、そして、その状況そのものを感謝する。そうすると、そこにある神の計画を見つけるようになります。神の計画は大きく申し上げますと、細かいいろいろなことがあるでしょうけれども皆さんがまずキリスト・イエスOnlyの信仰に立つために神様が頑張っていらっしゃることなのです。それにフォーカスを合わせることが神の計画を見つけることです。それから、Only伝道にオールインするクリスチャンということのために、その計画のゆえに今許されている状況なのです。だから、フォーカスを知らずに神の計画は何だろうと自分勝手に自分のレベルで勝手に決めつけるのです。神の計画はイエスOnly、福音宣教にオールインすること、これにフォーカスを合わせて考えてみてください。

　神様は休まれることなどありません。神様は失敗することもありません。ドクターXは失敗があるかもしれませんが、神様には失敗などはありません。ですから、感謝するわけです。神様の導きを自分のレベルで判断しないようにしましょう。そして、いま許されているその状況の中で、このようなプロセスを経て自分の人生の存在の理由、それはイエスの福音を伝えることなのだということを心から告白するようにしてみてください。つまり、皆さんが良い信仰者として頑張ろうとしているのにもかかわらず、心の底には、刻印の部分では、メインとサブが逆になっているかもしれません。ですから、この感謝を通して福音宣教がメインであって、ほかのすべてがサブに下りてくるようになること、これが感謝の威力でありいやしなのです。この祝福によって、皆さんの残りの生涯が光り輝く人生、悪魔が恐れる人生、その勝利の人生を歩むようになることを祈ります。

（祈り）

父なる神様。ありがとうございます。年一回の収穫感謝祭、しかし、日々、常に感謝するしかないいのちがあることを確認して、神の完璧な導きがあるのですべての状況を感謝し、そして、残りの生涯がそのすべてを合わせて福音宣教のために歩んでいること、最高に価値があり、また永遠に輝く価値ある人生を歩むことを感謝する、違う感謝の主人公としてしっかり立つようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。